

不思議な治療

大正大学教授 玉山成元

酒井内匠守忠相の家臣に服部権十郎という人がいた。元禄五年（一六九二）の秋ごろ、母親が病気になる、寝起きも自由になつてしまった。家のものは心配して良医をさがし、良薬を求めて看護にとめたが、少しもよくならない。病は日増しに重くなり、危篤状態になつた。

ところがある夜、母親の夢に一人の老僧が現れて、一包の薬を下さつた。そして「念仏を称えてこの薬を服用すれば病は治るだろう」といった。母親はありがたくその薬をいただいて、「私はお上人がどなた様であるかはしりませんが、どなた様でしょうか。そして、なぜ私をあわれんで親切にして下さるのでしょうか」といった。すると老僧は「自分は祐天である」といって、どことなく消えてしまった。母親は、不思議なこともあるものだと思つたが、ともかく一生懸命に念仏を称えた。

すると病気は日に日によくなり、一ヵ月ほどすると、すっかりよくなつた。喜んで母親は何とかして裕天上人に会つて

お礼を申し上げたいと思つた。そこで當時、石原に住んでいた裕天上人のところに、お礼にうかがつた。すると不思議なことに、祐天上人のお顔は、あの夜、夢に出て来た老僧と全く同じであつた。感激して、ぼうぜんとしている母親に、祐天上人はやさしく百葉をかけられ、お十念とお名号を授けられた。そのうえ、ご法語まで聞くことができた母親は熱心な念仏者となり、より念仏を続けることになつた。

こうしてすっかり健底になつた母親は、明るい信仰の生活を続けたが、元禄八年七月下旬、西方に向つて高い声で念仏を続け、静かな往生をとげたという。誠に理想の往生である。

今でも医者に見放された人が信仰に生き、不思議な治療によつてよくなつた、という話を聞くことがある。

西武不動産相談役・岡野関治氏がそうである。岡野氏は数年前、ある会に出席後、車で送られ帰宅した。元気な同母氏は下車後、反対に送つてくれた人々を門

のところまで送り、家に入ろうとしたとき、突然倒れてしまった。血圧が高かつたらしいが、その後どうなつたか本人は知らないという。奥様の話によると、さいわいに通行人が倒れている岡野氏を発見し、親切に知らせしてくれた。そこで大騒ぎとなり、順天堂病院に入るこゝになつた。

順天堂病院でも西武の岡野氏というこゝとで特別の診察体制をとり、一生懸命、治療に専念した。近代医学の先端をゆく病院で、しかも超一流の先生方の尽力にもかかわらず、岡野氏の病状は全快しなかつた。そして、ついに歩行は困難となり、車椅子の不自由な生活を送るようになった。足だけならまだ我慢もできるが、体がきかぬので風呂にも入れない。シャワーを浴びるときは、二人の世話にならなければだめだし、トイレにも行けないので、オシメをあてる状態であつた。本当に生きるのが、いやになつたという。こんなとき、フィリピンのルソン島バギオ市の市長さんで、超能力を持つラボ

不思議な治療

大正大学教授 玉山成元

さんというお医者さんの話を聞いた。近江八幡市の名刹・瑞龍寺の門跡・小笠原日鳳さんが大恩人の岡野氏の病状を聞いて自分がわざわざ体験し、岡野氏にすずめてくれたという。最初は半信半疑であった岡野氏も、日鳳門跡の厚意に感謝し、さつそくフイリピンに飛んだ。もちろん車イスで、数人につきそれぞれバギオ市までいった。

ラボさんは大変な信心家で、診察の前にはかならず仏壇を拜む。そして、岡野氏に「貴殿は信仰心があるか」どうかを尋ね、「ある」と答えると、診察をはじめたという。ベッドの上に寝かされた岡野氏は頭から足まで治療を受けた。麻酔など全くない。ラボさんは家族や他の患者の見ている前で治療を行った。さわっただけで悪いところはわかり、その治療は、カミソリのように切れる手で悪いところを切り、中から悪いものを取り出す。切り取るので血は出るが、拭くとすぐ止り、傷口もわからなくなってしまう。岡野氏は首やら腹やら足などを切られて悪いもの

を出してもらった。とくに岡野氏が歩けない原因は腎臓に石があるからだとい、その石を取ってくれた。取ったときは血がついていたが、あとは何でもない。今でもその石は記念にとつてあるが、その治療の後、ラボさんは岡野氏に「ベッドから下りて歩け」という。今まで車椅子を使っていたので、そういわれても歩く気力はなかった。しかしラボさんは「自分がついているから歩いてみる」という。そこで岡野氏は意を決して歩くと、不思議なことに歩くことができた。それをみて三十人前後の人々が皆拍手をして喜んでくれた。自分も歩けたことに驚き自信をもった。その後二年、今では杖は持つが、歩くこともできるし、トイレも風呂も自分で使うことができる。「本当にありがたいの一語につきる」といった。

ラボさんの奥さんは日本人で名古屋の人。いつぞや、この夫妻が日本に来て、あるテレビに出たことがある。私も偶然そのテレビを見ることができたが、何と

しても信じるのができなかった。ところがその後、あまりにも近い岡野氏がラボさんの治療を受け、元気な姿で会うことができ、驚きと感激で一杯である。本当に世の中には不思議な力をもった人がいる。

しかし現代人、とくに近代医学の進んでいる日本人々に、このラボさんの治療を説明しても、信じてもらうことは難かしいだろう。と同様に祐天上人の名号のご利益も信じてはもらえぬかもしれない。しかし、そうした不思議さは、昔から現代まで続いていることは仁かである。